

第 11 話：ニャンず、少し変化の朝

朝の光が差し込む頃、リビングに小さな緊張が走った。
ぽーちゃんが、くるりと後ろを向いたアビイちゃんのお尻を……ちょい。
——いつものアビイちゃんなら、「ギャー！」と騒いで、ベッドの下に逃げ込むところ。

だが今朝は違った。
アビイちゃん、振り返りもせずに、同じように前足で、ぽーちゃんのお尻を……ちょい。
ぽーちゃん、ぴくっ。
「くっ」とつぶやくような声を漏らして、ぱっと走り出し、
カーペットの下へもぐり込んだ。
それは逃げたというより——遊びの続きを誘うような動きだった。
すると——

どこから見ていたのか、ビオラちゃんがタタタッと駆け寄り、
ぽーちゃんが潜ったカーペットの上に、ぴよん。
……そこで終わらなかったのが、今朝のニャンず。

なぜか急にスイッチの入ったビオラちゃん、
「ダーッ！」と声が聞こえそうな勢いで廊下へダッシュ！
そしてすぐに戻ってきて、もう一往復。
目にもとまらぬ速さに、
ぽーちゃんもアビイちゃんも、ただただ静かに見守っていた。

……静かだけど、確かに動いている関係。
いつもの朝、でも、ちょっとだけ違う朝。
ニャンずの世界にも、風が吹いているらしい。